

中学校長会会長賞

堺市立 赤坂台中学校 三年

岡田 佳央理

今の社会に大切だと思うこと

まわりをみわたすと、自分とは違う人がたくさんいます。自分と全く同じ人は一人もいません。だからこそ、お互いを尊重することや助けあうことが社会において大切だと考えました。そうなたら、差別はなくなっても過ごしやすすい社会に変わると思っています。そのため思いやり・助けあいの心をもち相手を理解することが大切だと思います。

例えばLGBTです。今は、LGBTを題材にしたマンガやドラマなどもあり、LGBTについて知っている人も多いと思います。私も最近、中学生から女の子として生きることにした男の子が主人公のドラマを観ました。アメリカのドラマで日本語に吹きかえられていたのですが、アメリカだけでなく日本にもこんなに苦しい思いをしている人がいると思うとても悲しい気持ちになりました。もっとたくさんの方が理解できたら、その人の事をもっと知って助けてあげられたらLGBTの人が苦しい思いをすることは無いと思います。私の母がある講座で知りあった人に女性から男性として生きることにした方がいらっしやいます。母はそ

の方のことを「自分らしく生きていて尊敬する」と言っています。母は、前にLGBTの人たちが自分まわりとちがうって知って、「私、レズビアンなんだよね」とか打ちあけにくい環境はいけないと言っていました。だから、私はお互いを尊重することができる社会になってほしいなと思うようになりました。私はそのため心にかけていることがあります。それは、必ず最後まで人の話をきくこと。そしてそれが悩み事や相談事だった場合、特に集中してきくこと。相手の「うん」や顔の表情を見てどんな気持ちか考えてきくこと。こうやって私は人と話しています。「話は最後まで相手の目を見てきく」「話す時は相手の目を見て話す」これは母の教えです。私は、全ての人が自分らしく楽しい毎日が送れて、互いを尊重することができる社会にしたいです。

LGBT以外だと、障がいや持病です。私の学校にも何人か発達障がいをもつ人がいると思います。みんなが知らないだけで持病がある人もいます。そういった、誰かのサポートを必要としている人を助けられる人が世の中に増えてほしいです。で

も、助けが必要かどうかがわかりにくい人もいます。私の母もそうです。母は関節リウマチという関節が痛み、時には腫れて動くことさえしんどくなるという病気を患っています。母は見た目は健康な人そのものです。それに痛くても私たち家族のために動いてくれるので私でさえ母が病気ということを時々忘れます。しかし、目には見えませんが病気は病気です。しんどい時には誰かのサポートが必要です。同じように障がいをもつ人もそうです。目の見えない人、耳の聴こえない人…。特に障がいをもつ人は、誰かのサポートが必要だと思います。困っている本人が「助けて」という前にまわりが気づいて行動すべきだと思います。これは、障がいをもつ人だけでなく、困っている人は助けることが大切です。困っている時はお互いさまです。みんなが助けあうことによって、そんな人たちが安心して外へ出かけられる社会にしたいです。

私は、今の社会に足りないものは思いやり・助けあいの心と相手を尊重する心だと思います。コロナによって、自分のことで精一杯でまわりが見えていないように感じます。不安な気持ちやストレスのせいか相手を傷つけているニュースをよく見ます。SNSが便利になった今、ストレス発散やイラツとしたために相手の顔が見えないからといって傷つけている人、たくさんいると思います。相手を傷つけるために心があるのではないはず。その

心がでてしまった時に誰かを思いやる優しい心に変えることができたならお互いを尊重し助けあえる明るい社会になると思います。

